

船舶事故等調査報告書

平成27年10月22日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2015 広第11号
事故等種類	衝突
発生日時	平成27年1月18日 06時15分ごろ
発生場所	岡山県岡山市小串港東方沖 西大寺港九幡東1号防波堤灯台から真方位140° 1,430m付近 (概位 北緯34° 35.65′ 東経134° 02.44′)
事故等調査の経過	平成27年1月26日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A はしけ ㊦ 5、1,340トン なし、福山海運株式会社 B はしけ ㊭ 2、1,300トン なし、福山海運株式会社 C プレジャーボート ラ・コスタ7、7.3トン 270-43341岡山、有限会社ピアA
乗組員等に関する情報	A 作業責任者A B 作業責任者B C 船長C、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定
死傷者等	A なし B なし C 不明
損傷	A 右舷側中央部に置いた梯子が曲損 B 船尾端の左舷側外板に擦過傷 C 船首部に破口及び亀裂
事故等の経過	<p>A船は、作業責任者A及び作業員1人が乗船し、また、B船は、作業責任者Bが1人で乗船し、それぞれイルミナイト約1,000tを積載し、荷揚げ待ちのため、小串港東方沖において、共に右舷船首の錨を使用して船首を南東方に向け、A船の右舷船尾方にB船が位置する態勢で錨泊していた。</p> <p>作業責任者Bは、平成27年1月18日06時15分ごろB船の船尾部でドーンという音がしたので船尾甲板に出て確認したところ、船尾甲板の上に白い塗膜片等が散乱し、船尾部左舷側外板に衝突痕があったほか、白い樹脂片が付着しているのを認めた。</p> <p>作業責任者Aは、B船の方からドーンという音がしたので船尾甲板に出て見たところ、C船がB船の方からA船に接近し、06時15分ごろ、A船の右舷中央部付近にC船の船首部が衝突するのを目撃し</p>

	<p>た。</p> <p>C 船は、船長 C が 1 人で乗り組み、同乗者 1 人を乗せ、小串港東方沖を南東進中、B 船と衝突した後、A 船と衝突した。</p> <p>C 船は、反転して岡山港の方向に向けて航行した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風 なし、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期</p> <p>日出時刻：07 時 10 分ごろ</p>
その他の事項	<p>作業責任者 A は、ドーンという音を聞いてから 15 ～ 20 秒後に C 船が A 船に衝突するのを目撃した。</p> <p>A 船は、停泊灯を表示していたほか、船首部及び船尾部に設置した黄色閃光灯並びに作業灯を点灯していた。</p> <p>B 船は、停泊灯を表示していたほか、船首部及び船尾部に設置した赤色閃光灯を点灯していた。</p> <p>A 船及び B 船の乾舷は、A 船が約 1.6 m、B 船が約 0.5 m あった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>A なし、B なし、C 不明</p> <p>A なし、B なし、C 不明</p> <p>A なし、B なし、C 不明</p> <p>A 船及び B 船は、共に小串港東方沖で船首を南東方に向けて錨泊中、C 船が B 船の船尾端に衝突した後、A 船の右舷中央部に衝突したものと考えられる。</p> <p>C 船は、小串港東方沖を南東進中、B 船と衝突し、続いて A 船と衝突したものと考えられるが、船長 C から情報が得られなかったため、衝突に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、小串港東方沖において、A 船及び B 船が船首を南東方に向けて錨泊中、C 船が南東進中、C 船が、B 船と衝突し、続いて A 船と衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>